

現代短歌 パイレーツ

宮崎編



もくじ

花奈 / 二十歳の頃の思い出 長谷川麟 3	yes / いつまでも対象 宇田川美美 69
枕から枕へ / 南へ 山階基 11	シナプスが電気を使得僕らを受っぽくする / 振り返るように 武藤寛和 77
平凡がいい / タケチンのこと 小俣鱈太 21	打って出ましょう / でけえ 平出奔 87
日帰りエスケイプ / 蜂条饅頭ラブソディ 古谷明希歩 31	けれども / ひなた 佐伯紺 95
日記ってなんだったんだ短歌 ~ 宮崎大丈夫 編 ~ / 短歌ってなんだったんだ日記 ~ 宮崎死闘編 ~ 石井儼一 39	ピンポン / ヘッドホンを買う 知念ひなた 105
liquid / 宮崎、あたたかく 安田湖夏 49	2024.7.17-18 / 青春 18 きっぶの終わりに 吉田恭大 115
フルキャスト / 波間のあざらし 黒川鮪 59	明察 / みやぼか通信二〇二四年九月号 井口寿則 125

『現代短歌パイレーツ』は、
2024 年に宮崎県を訪れた歌人さんたちに
短歌連作 10 首 / 「宮崎県」をテーマにしたエッセイ
を書き下ろしてもらった
アンソロジーです。

イラスト・妹

2024.7.17 - 18

吉田恭大

始発。鳥取から因美線と津山線で岡山まで。

山の陰、山の気温のなか進む智頭土師那岐美作河井知和

岡山から観音寺まで快速マリンライナー。

晴れの国の日差し眩しくそのままに瀬戸内海を渡っていった

観音寺から松山まで3時間33分。

目を開けるたび学生が入れ替わる車内に波がさざめいている

ニュー道後ミュージック。

怪談の果てに女の幽霊が二本の脚を晒してみせる

道後温泉には入らなかった。

合体すると道後温泉本館になるフィギュアを買わなかった話

松山から八幡浜。八幡浜から宇和島フェリー。

普段は朝まで船内で寝かせてくれるけれど、お盆ダイヤで早々に降ろされてしまう。

目を閉じて横たわるだけでもいいと岡井隆も言っていた筈

それで、別府で朝まで持て余す。

駅前の駅前高等温泉が開くまで駅前で横たわる

「JRキューポのおトクさを、広めるためにインフルエンサーをめざすJRキューポの妖精。」

キューポちゃんが可愛くても検索しないピクシブ大百科も調べない

別府から延岡まで特急にちりん3号。

この駅は大きなTSUTAYA図書館で待合で読む木山捷平

延岡から日向市へ。一年ぶりの日向市駅。

改札を出て牧水の銅像が何度でも記憶より大きい

青春18きっぷの終わりに

移動そのものが趣味の人間として、十代の頃からシーズンのたびに青春18きっぷを愛用してきたけれど、社会人になってからはさすがに利用頻度が落ちてきて、LCCや新幹線を使うことが多くなった。鈍行にひたすら乗り続けるよりも、たとえば名阪間ならJRより近鉄特急に乗りたいし、関西から九州に行くなら東九フェリーで夜の間に移動したい。

二〇二四年夏。牧水短歌甲子園を観戦するために、実家のある鳥取から会場の日向市まで行くことにした。普通列車を乗り継いで鳥取から松山を経由して八幡浜まで移動し、そこから宇和島フェリーで夜のうちに別府まで。翌日別府から日向市まで日豊本線に乗って、昼までに日向市に着くルートを立てる。

18きっぷユーザーにとって、日豊本線は鬼門だ。特に大分から宮崎の県境、佐伯―延岡間は界限では「宗太郎超え」と呼ばれていて、普通列車が上下あわせて一日三本しか走っていない。今回は別府―延岡間を特急にちりん、延岡―日向市間を普通列車に乗ることになった。延岡―日向市間は五〇〇円足らずで着いてしまうため、18きっぷは最初の日しか出番がない。

二〇二四年冬から青春18きっぷがリニューアルして、三日間か五日間、連続する日程でしか切符の利用ができなくなるとJRから発表があった。何日もぶつ通しで鈍行に乗り続けるのは、時間も体力も限られる三十代社会人にはどうしても難しい。今後の移動の選択肢として、18きっぷを使う可能性はほとんど無くなってしまった。残念だけれども、青春の終わりとしてはそろそろ良いタイミングなのかもしれない。次に宮崎に行くときは、神戸からカーフェリーで向かおうと思います。

吉田恭大（よしだやすひろ）

一九八九年鳥取生まれ。歌人・舞台制作者。二〇一九年いぬのせなか座より『光と私語』を刊行。同年より詩歌の一箱書店「うたとボルスカ」を運営。二〇二五年に第二歌集『フェイルセーフ』（角川書店）を出版。